

Tグループ（人間関係トレーニング）第25回

-深いかかわりから学ぶ-

日本の各地から集まったさまざまな人々と八ヶ岳を目の前に仰ぐ清里の豊かな自然はあなたが、人と人との関わりを探究するのを豊かにささえてくれるでしょう。

- 本当の自分自身でいられることの深い充足感
- 人と人が関わるプロセスの変化に富んだ姿
- 対話の中で人の心に触れた瞬間の感動
- 深いところで自己と対面した驚き
- ズッシリとした学びの手応え

<p>担当者</p>	<p>津村俊充（南山大学人文学部心理人間学科教授） 楠本和彦（南山大学人文学部心理人間学科教授） 中村和彦（南山大学人文学部心理人間学科教授） 杉山 郁子（南山大学人文学部心理人間学科非常勤講師）</p>
<p>概要</p>	<p>人間関係の体験学習の中でも、特に密度の濃い体験のできるトレーニングが「Tグループ」とよばれる集中的集団体験です。その中から、深く豊かな気づきや学びが生まれます。</p> <p>10名程度が1グループになって、自由な雰囲気の中で対話を続けていくと、自己理解や他者理解、受容や共感、傾聴や援助関係、コミュニケーションやグループプロセス、などにかかわる様々な現象が起こります。その時その場に起こっている人間関係や自分や他者のありようについて、気づいたことや感じたことをお互いにフィードバックしあうことによって、生の人間関係から学ぶことが可能になるのです。</p> <p>Tグループに代表されるラボラトリー方式の体験学習に参加し学ぶことを通して、現代社会の中に信頼の風土や人と人とのつながりを創り出す変革推進体（change agent）として、人々とともに生きられるようになることが期待されています。</p> <p>●Tグループについて</p> <p>Tグループとは、Training Groupの略であり、人間関係トレーニングの原点かつ源であるトレーニング方法です。具体的には、メンバー7～10人とスタッフ2人が1つのグループを組み、同じグループで1週間を過ごしていく中で生じる人間関係自体を題材にしながら、ともに学びともに成長することに取り組むトレーニングです。</p> <p>歴史：Tグループの始まりは1946年、グループダイナミクス研究者として有名なK. レヴィンを中心とした研究者たちが開いたワークショップでした。その後、アメリカ合衆国N T L（National Training Laboratory）でTグループが継続的に開催され、現在でも核（コア）プログラムとして実施されています（Human Interaction Laboratoryという名称で実施）。</p> <p>日本には、1950年代後半に紹介され、立教大学キリスト教教育研究所（J I C E）によるヒューマン・リレーションズ・ラブとして実践が重ねられました。</p> <p>南山大学人間関係研究センターでは、Tグループ本来の発想である「人間尊重」をベースとしたグループアプローチとして、前身である南山短期大学人間関係科時代から通算30年あまり、このTグループを実施し続けています。</p> <p>他のトレーニングとの違い：</p> <p>Tグループは、合宿制で行う集中型のトレーニングです。したがって、自分自身のあり方、対人関係の持ち方、グループダイナミクスについてなど、非常に深く学ぶことができます。6日間という長いプログラムで実施するため、他のメンバーとも深い関わりができ、そこから深い気づきを得ることができます。また、ふりかえりの時間が充実しているのも特徴となっています。</p>
<p>日程</p>	<p>2013年3月10日（日）～3月15日（金） 5泊6日 フォローアップ：2013年6月23日（日） 予定 10：00～16：00（南山大学 D棟）</p>
<p>定員</p>	<p>18名</p>
<p>会場</p>	<p>（財）KEEP協会・清泉寮 〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545</p>
<p>受講料</p>	<p>受講料 78,000円〈税込〉 滞在費 53,250円〈税込〉 予定（ツイン利用、宿泊・食事含む）※現地徴収</p>
<p>メルマガ講座報告</p>	<p style="text-align: right;">コーディネーター 楠本和彦 記</p> <p>「Tグループ 第25回人間関係トレーニング」が、2013年3月10日～15日(5泊6日)の日程で、清里清泉寮にて、開催されました。参加者は、オブザーバーも含めて、19名。スタッフは5名でした。</p> <p>講座終了後に記入していただいたアンケートによると、多くの参加者の方が、この講座の学びについて、高い満足感や意味深さを感じられていることがわかります。学びや気づきの内容として、自己理解や他者理解、関わりを通して関係性を深めていくこと、受容や共感など、人間関係における重要なポイントが挙げられています。それらのことについて、濃密な体験を通して、実感されたことが、アンケートの言葉からいきいきと伝わってきます。</p> <p>スタッフにとっても、貴重な学びの体験でした。例えば、野外での全体会において、新たなプログラムの企画・実施を行いました。Tセッションの中でも、トレーナーとして、また一個人として、大きな学びや気づきがありました。ラボラトリーとは、参加しているすべての人々が共に学ぶ場である、ということを改めて実感しました。</p> <p>ラボラトリーに集ったすべての方への感謝の念を記し、この報告を終えたいと思います。ありがとうございました。</p>